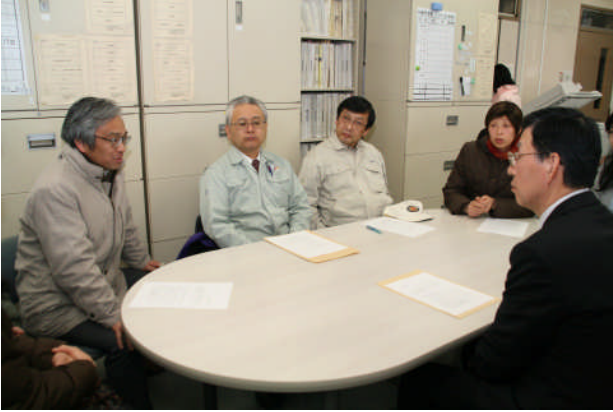


東日本大震災岩手県共同対策本部ニュース

事務局
いわて労連
No.2
2011.3.17

「共同対策本部」岩手県へ申し入れ



岩手県へ申し入れる

3月16日、東日本大震災岩手県共同対策本部は第2回共同対策本部会議で確認された事項を岩手県に申し入れました。

申し入れには、鈴木いわて労連議長、佐藤岩手自治労連委員長、中野医労連委員長、五十嵐同副委員長、県医労春山書記長など8名が参加しました。

申し入れ内容は①人命救助についての最大限の努力②県民に対して生活に支障を来している問題（食糧不足、燃料不足など）でパニック状態に至らぬよう、メッセージを発信し、被災地以外の病院・老人ホームなどの食糧確保、ガソリン等の確保について経済産業省や石油元売りメーカーに対して緊急要請を行う事③緊急輸送だけでなく、日常生活に欠かせない品物を被災地に運ぶ輸送トラックの通行が可能になるようして頂くこと④被災地以外の医療・福祉（介護など）従事者の移動車両への給油について配慮して頂きたいこと⑤金融機関に対し、ローンの遅延利息への措置や小口無利子の生活支援制度を金融機関に要請すること⑥陸前高田市や大槌町などに自治体機能が発揮できるよう、県内及び全国からの自治体職員派遣を要請すること⑦県立病院などの職員の異動は時期を

延期し見直しを行う事。を文書で申し入れました。

対応した伊藤雇用対策・労働室長は、申し入れ内容は県災害対策本部に伝えると返答し、大変な時期における県行政側の対応について理解を求めました。共同対策本部は県・対策本部からの要請があれば全面的に協力することを表明しました。

「岩手県共同対策本部」第2回会議

3月15日、いわて労連会議室で第2回共同対策本部会議が開かれました。

現在は人命救助・行方不明者の捜索を続ける一方で被災者の救援活動にも力を入れている。医療機関は救命・治療に全力をあげている。ライフラインの復旧に全力をあげている。ガソリン・重油・食料品の品不足状態が続き、救援活動に支障をきたしている。全労連・単産では対策本部を設置し、救援のため、カンパ活動などを行っているという状況が話されました。

各団体からこれまでの取り組みについて報告が出され、地震や津波による悲惨な状況が話されました。病院職場では食材不足で入院給食も作れない状況や、ガソリン・重油・食糧不足で県民生活が大変な状況になっていることが報告されました。

こうした中で県知事に対して、ガソリンの確保のため、政府・石油元売りに働きかけることや、県民に状況を報告し、みんなで協力し合うように呼びかけることなどを申し入れることを確認しました。

ボランティア、救援物資などについて

救援ボランティアは県などの受け入れ体制が整うまで募集はしないこと。救援物資の受け入れは、輸送方法がないので当面、紙おむつ、下着などを全国各地で集めて置いてもらうようにすること。そして被災者支援と救援支援活動へのカンパを集

めることにしました。



宮古市田老

◎各団体の取り組み

●自治労連

支援本部から青森空港、陸路で岩手入りしました。

●医労連

宮城県に援助していましたが岩手にも医療の応援に入る予定です

●明治乳業争議団からカンパ

労働争議を行っている明治乳業争議団と支援共闘会議から3万円のカンパを頂きました。

●共産党街頭募金を開始

日本共産党岩手県委員会では街頭募金活動を始めました。3月15日の亀が池前の募金活動では

財布の中身を全て空けていく高校生、5000円札を入れていく方などがいました。



街頭募金活動

◎情報・状況・その他

★車の燃料確保が大変、給油は10リッターに制限され、救援車両の燃料確保に支障が出る事態になっています。

★ライフラインは復旧しつつあります。被災地では相変わらず停電が続き、停電のため断水状況が続いています。

★災害ボランティアは募集していません。

※災害ボランティアは受け入れが出来るようになったらお知らせします。

救援物資リスト

長靴、作業服（上下）、軍手、ゴム手袋、赤ちゃん・大人のおむつ、粉ミルク、下着（未使用の物）ドライシャンプー

※物資は保管場所が確定するまで各自で保管しておいて下さい。

共同対策本部の役割

○情報収集と発信

○各団体・単産を行政につなげる

○総合的な枠組みで連絡調整する

※共同対策本部では情報を集めています。メールかFAXで情報・写真等をお寄せ下さい。